

園だより



第 9 号

平成 25 年 10 月 30 日

子育ては楽しみながら・・・

これまでいっぱい苦労して育てて来た子どもが、運動会で活躍する姿を見て、皆さんはどのような感想を持たれたのでしょうか・・・。

子どもが誕生した時は小さくて柔らかい肌で触ると壊れてしまいそうな感じがしたはずですが、それをここまで育てる過程では、風邪をひいたり時には小さな怪我をしたりいろいろな心配や苦労があり、それを一つひとつ乗り越えて今の様なたくましい姿になりました。それだけに、運動会で仲間と力を合わせて走り障害物を乗り越え、可愛らしいダンスをする姿を見せてくれたことに胸が熱くなったのではないかとお察しします。子育ては人生の大事業のひとつで、誰にとっても易しいことではありません。それにしっかりと向き合って愛情と情熱を持って取り組んでいる皆さんに心からの拍手を送り敬意を表します。いっぱい心配し苦労があったからこそ、愛情がさらに深くなり、今の成長が嬉しく子どもの活動に感動できるのです。やんちゃな子もいますが“やんちゃは活力”です。控え目な子もいますが、それは良い人間関係に大いに役立ちます。そのどれもが、素晴らしい個性と能力です。子どもは未熟ですから失敗や間違いもあり、そのたび親は心配し苦労しますが、それが必ず深い愛情と絆づくりにつながります。

子育てをしている親は、みんな悩みや迷いを持っていて、時には苦闘もします。

しかし、子育ての中のどんなことにも将来への素晴らしい糧が潜んでいます。親は叱らなければならないことや時には嫌な思いをすることもあります。心の底では子どもの将来を信じ他と比べずに楽しみながら子育てしていただくことを願っています。自分の子どもに誇りと自信を持って・・・

山の子祭りへの感謝…

山の子祭りの本番前日、子ども達は“お母様方の手作りおもちゃ”を一点だけ、先にお買わせてもらいました。それぞれの品のお母様方の説明(コマーシャル)があり、それを聞く子ども達の目の輝きに驚かされました。赤組・緑組・青組全員の子どもが興味津々・集中力いっぱい・真剣そのもの、素晴らしい姿を見ることが出来ました。あの瞬間を見ただけでも、お母様方の努力されてきたことに大きな価値があったと思って、感謝の気持ちでいっぱいです。

最近ではNETのゲームに偏ることや予想できない危険な事件が起きて、子ども達は人の情や温かさを経験する場が少なくなっています。

お母様方の活動してきた姿や手づくりの温かい作品を見て、子どもなりに人の素晴らしさを感じ取ったと思います。その様な機会を作っていただきましたことに、虹の会役員の皆様・保護者の皆様に重ねてお礼を申し上げます。

虹の会の活動は“ばんけい幼稚園の教育”にとって重要な役割を果たしていただいています。活動そのものよりも、そこまでに至る過程を大切にしてお子育の仲間作りを大切にさせていただくことをお願いし、それが実現していると思います。

子どもの将来を思い、子育てに迷いや悩みを誰もが持っています。そんな時に役立つのは、仲間の温かい一言であり何気ない手助けです。

今回の活動で築かれた人の関わりを大切にしてお子育の皆さんが楽しく元気で子育てに取り組んでいただければ幸いです。大げさに考えず穏やかな気持ちで、お互いの立場や考え・生活習慣等を尊重して、何時までも続く仲間であってほしいと願っています。それを基に幼稚園と保護者の皆さんが一体となって、子ども達の健やかな成長を目ざしていきたいと思ひます。無理なく・楽しく・ゆったりと

熊情報について…

今年、現在のところ盤溪地区には熊出没情報は、ほとんどありません。幼稚園周辺やパークゴルフ場にも、その形跡は全くありませんが、これからも油断することなく、子どもの安全のために万全を尽くして参ります。

自分を主張する・・・

子どもは成長するにしたがって自分の考えを持つようになります。そして、親や教師の言う通りにはならなくなり、周りを心配させたり慌てさせたりします。

それは異常なことではなく、子どもの当たり前前の成長過程での姿で、特に強く現れる時期を反抗期と呼んでいます。教師や親は、その時期を大切にしなければなりません。

それは、子どもが将来間違った方向に向いたり心配される人間になったりすることではなく、<自我の芽生え>として捉えることが大切です。その現れ方はみんな同じではなく、子どもによって千差万別、それぞれ違います。

これまで親や兄弟・祖父母の言うことに素直に従ってきたのが、心が成長するにつれて自分の考えが生まれてきて、これまでとは異なる言葉を発したり行動したりします。それが突然現れることもありますし、徐々に変わっていくこともあります。

周りにとっては驚きであったり困惑であったりして、当然 ぶつかり合いも起こります。しかし、これが後々の成長につながることを忘れずに子どもに向かわなければなりません。

当然、子どもは未熟ですから間違った言動が出ることがありますので、その時はお父さんやお母さん・教師の出番です。ルールやマナーに反することや真実とは違っていることには、毅然とした態度で教え諭し、時には精神的に戦わなければなりません。それがないと間違いに気づかず好ましくない態度や考えを持つ人間になってしまうこともあります。

そこで大切なのは、子どもの考えにしっかりと耳を傾け、正しい主張は認め励ますことも忘れてはなりません。そのことで互いの信頼関係が生まれ、反抗期を脱するきっかけにも結びつきます。感情的になつたり大人のを考えを一方的に押し付けたりしないことが求められます。

反抗期の乗り越え方が、成人してからの人間関係づくりにも大きな影響を与えられ、反抗することより反抗しないことを心配する専門家もいます。

親は“子どもが反抗したら、赤飯を炊いて喜ぶ”くらいの心の余裕を持って、子育てをできればいいですね。大変むずかしいことですが…。